

3397 白夜の月：和紙・夢絵作品とは



印刷物、新聞、ネットやテレビ画面では、本当の夢絵の良さは伝わり難い。

和紙の質感や優しさ、作品の微妙さを伝達するのは困難。

その表現の精度は、現時点、無理。

したがって、広報には「写真を代用」に使っている。

夢絵作品の顔料は、100年。純楮^{こうぞ}の寒漉^すき和紙は、1,000年持つ。

和紙の厚さも一枚一枚、作品によって違う。

「不思議な作品ですね」と言われる。和紙芸術「夢絵作品」

百聞は一見^しに如かずの作品。そう感じて頂けるだけの秘密がある。

料理でいう、単なる隠し味が独特というだけではない。

料理の素材に、フィルムは使う。それも、低感度の極細のフィルムが素材の一つ。

平面でない、奥行きのあるモチーフ。俗にいう洋の写真が、

和の和紙芸術「夢絵」になる。別物に生まれ変わる。即ち、「夢絵」になる。

写真展・個展は、東京銀座4丁目鳩居堂、大阪梅田丸ビルでは2回の個展。

今の京都ホテルオークラ、3階の曲水の間で100点作品展示。

写真は素材、目標ではない。全写真寄贈。仕事としてのオファーも数々頂いたが、固辞した。

和紙夢絵にとりつかれてしまった。鎌倉では禅寺とは別に作業場を確保し専念。

ある段階まで達成、虎ノ門の特許庁まで出向き、申請もした。

その後、海外ボストンでの個展開催はじめ、日本へ逆輸入。京都、大阪、東京、鎌倉…



上記は、大阪梅田阪神百貨店美術画廊。夢が次々と実現。

東京銀座三越百貨店美術画廊での個展、鎌倉芸術館での個展、東京お台場、ホテル日航。

京都ホテルオークラでの個展開催を複数回。海外での話も… 夢の時間。

徹夜が続いた日が何度も、海外への取材も、時間と身体と資金。

個展も持ち出し。過労、強健な心身も悲鳴をあげた。横浜の病院で長期検査が続いた。

いい夢の時間をもたせていただいた。その後再び、海外や国内への取材に専念。

ご縁や人脈に助けられたものの、資金問題や人間関係の難しさ、諸般を判断して京都に帰還。

今後は、心身健康最優先、被写体を発見する楽しみを奥深く、

ハプニングと偶然の出会い。景観だけでなく、旅の途上や旅人との出会い…

故郷・京都を拠点に活動。活動内容は、冊子の表紙絵や画像提供、産経新聞「地球のかおり」

執筆のお話をいただき、その第一号が「白夜の月」

次に、どんな状況だったか、印象に残ったこと、感じたこと、エピソードなど…